

# カトリック 三田小教区報

2024年 7月号(No. 261)
三田市屋敷町8-15 TEL 079-562-4404 FAX 079-562-9404
発行責任 神田 裕神父 編集: 宣教委員会広報部

## “たかとり”震災語り ①

「キリスト像が火を止めましたね。奇跡ですね！」  
「いいえ、火を止めたのは人間です」  
「キリスト像は燃えなかったですね。奇跡ですね！」  
「いいえ、石膏なのでもちろん燃えないです」  
「キリスト像は倒れなかったですね。奇跡ですね！」  
「いいえ、土台をしっかりと作っていたからです」



今年も半年が過ぎた。そしてあと半年で、阪神淡路大震災から30年を迎える。

あの日、“たかとり”に殺到したマスメディアのお目当ては、焼け跡に残った「奇跡のキリスト像」だった。テレビ、新聞、雑誌などなど。いくら否定しても「奇跡のキリスト像」は発信され続けた。ふと思った。世間の目から見た教会はそうなのかもしれない。自ら情けなくも思った。悔しかったので、キリスト像にヘルメットをかぶせた。するとカトリック系の雑誌がヘルメットのキリスト像を表紙にした。すかさず匿名の抗議の電話がかかってきた。「なんということをするのか！」と。被災地の様子を聞くこともなくただお叱りの電話。大真面目で反論した。「もし今キリストさんがここにいてはったら、こんなところでポオーッと突っ立ってへんでしょ。ヘルメットかぶってみんなと一緒に働いてはるんとちゃいますか！」と。教会は人の痛みはどうでもいいのか？やりきれない気持ちを持ちながら、震災の日々が始まった。

焼け跡のど真ん中で夜通したき火を焚く“たかとり”に、どこからともなく多くのボランティアの人たちが集まった。教会は被災地の救援拠点となった。避難場にいる人たちの生活支援、公園での炊き出し。ボランティアの人たちへの食事支援をするボランティアも集まり、自分たちの寝泊まりする建物もつくり、まちの保健室もつくり、多言語で情報発信する放送局もつくり、灰色の町にペンキで絵を描いてきた。

そして30年たとうとしている“たかとり”は、日常多くの人の集まる多文化発信拠点として今も進化し続け、ひとつづくりまちづくりに貢献している。

キリスト像は今も同じ場所に立っている。みんなここに集まっておいでと言わんばかりに、両手を広げて立っている。キリスト像は奇跡を起こし続けている。

三田教会 神田裕

7月教会行事			※ミサ前、各自で静かに祈って下さい。 ※週日(水・金)のミサ:9時30分(司祭不在時はありません)
1	月	福者ペトロ岐部司祭と187殉教者	
2	火		
3	水		
4	木		
5	金		
6	土		祭壇花当番:東・北地区
7	日	年間第14主日	ミサ:午前9時30分 清掃当番:東・北(聖堂)／西(トイレ)／中(集会室・前庭)／南(敷地外周)
8	月		
9	火		
10	水		
11	木		
12	金		
13	土		祭壇花当番:南地区
14	日	年間第15主日	ミサ:午前9時30分 清掃当番:東・北(トイレ)／西(集会室・前庭)／中(敷地外周)／南(聖堂) <b>定例評議会</b> ポルトガル語ミサ:午後3時～ 司式:川邨神父
15	月	[海の日]	
16	火		
17	水		
18	木		
19	金		
20	土		祭壇花当番:中地区
21	日	年間第16主日	ミサ:午前9時30分 清掃当番:東・北(集会室・前庭)／西(敷地外周)／中(聖堂)／南(トイレ)
22	月		
23	火		
24	水		
25	木		
26	金		
27	土		祭壇花当番:西地区
28	日	年間第17主日	ミサ:午前9時30分 清掃当番:東・北(敷地外周)／西(聖堂)／中(トイレ)／南(集会室・前庭) <b>教会学校デイキャンプ</b>
29	月		
30	火		
31	水		

※ 8月のミサの朗読・共同祈願担当地区は → 南地区です。

※新型コロナウイルス感染症対策などで、行事等が中止になる場合があります。